淺井忠

明治卅七年九月

特別
イ4
1919
200

38- 8999

○王前を拝して
う其著戦袍の
詩もある、
とし
の本
ら、こ
○朝鮮の
とを
荘の
十二
そ

(主任)として未頼黄のの様なる気を出すも
ともすれば個人を一二着けてそんうえが
地下室を保護預室まであるが
室内の開閉を上層の営業室にて操作
右をもせうとするに又室内の中の室の戸出入を氣
にする、又室内の天井……等を色の
コンクリートとの間より織の網を引き張り
へてある、普通金庫室に入れや室そのう外
も厳重なるものが此の外部の天井も金庫
うにある
室内の保護預品を入れる函を冬銘を二個
完備して置之を開閉の出来ぬ様に仕組むもの
開閉を行ふ鍵の一個を
預けをおいて他へ持ち別に事務
その函を設けその中に預品を入れ
の鍵だけを渡すこと
う保護函の構造を述べるときは

特に設けらるる未亡人用の一室も設けられ新築する
ことの出来る様となりそうして此処に入る婦人は
扉を閉ければ室内の電灯が消え又此処を出ると電灯
が点ずる様になっている
又書簡文例人名辞典と云ふ様なものも出版されて
居る
書信文化粧室の後の方に外国の廣告を掲げる用意
も仕てあるが、なんでも一ツクリヂリオヨー（里程）の
の尺度を支那の様に
東京築原製

外ならぬ此の人をおもなる
とする物もの基くのである
○英国海軍艦用潜水夫養成所の一覧
此度太平洋を渡航する
英国の海軍省では各艦毎々潜水夫
熟練する人員を
ある地部分を教育
不亜の災難の
受ける時
を調査する
連盟を

出て来る。そうして此の高さを超
過する毎に其の超過分を先づ其
高の気圧に於ける容積の比例を
以て膨脹し、而して其の膨脹の
為めに生ずる浮力を以て其の
膨脹を救援する為めに消費
せられたるものと見做すの
である。

潜水者が最初水中に没するや否や身体
は殆んど全く水圧を蒙り、深さ二十尺に
至る迄大気の圧力のみ一インチ平方に付八
ポンドなるの圧力を受けますけれ、降る程
に益々増加して二十尺に於ては八十八ポンド

東京帝國大學

ずつ圧力を受ける
一般に言えば大体の深さ
深印ち三十二尺の処に於ては人身の受
ける圧力は二倍ポンドであって大
気の圧力二倍ポンドを合計四倍ポン
ドを受けることになる、千貫の圧力
を受けるべきも

如何なる水中に降りても一般に
静止の状態に於ては胸膜の内
外に同一の圧力を受けるが故に
胸膜は何等の圧迫をも感ぜず
又肺臓も其の膨脹を妨げられ
ることなく、而して潜水者は
此の圧力に対して十分の自信を
有するものである、而して

御手を振るもおそし拍を促す人々を
乗せ八十尺以下の深さの一動二尺以下の前
後を越ゆる速度をもって上昇すべきこと
ゝ定むること
潜水者の名称を廃止し潜水士と改称
をもって潜水業務に従事する者の
ことを潜水士と称すること
井口固着を使用し潜水者をして
をもって作業を行わしむるもの
さる作業を完了したる後ゝ

クリームびも塗る場合は眼鏡の外しい事と
表像の外びる
さ塗ることを必ずも注意しもるひあるこの大吹岬のめきま
一等除ることあるこを注意しもる石油を用みる直
径三寸の丸心ランプの芯を交お作
吸も遠くをするのびる
詰る直径三吋の丸ベランプの芯を交お作
用び交射セーもるのびる勿論修正をなうべく
其火口を単る石油の様こそれ或を業
油を用の為を更改を用る為を石油並

多作ゆうる為あるが交射作用を石
用てるるつてを防ぐ為を一びる
電気こそーこは石アセチリンを用みるこ
うというつる電気を用みるこ
一重及び費の容易あるメリット アセチリン
のめく処防波扱しい為を共修繕が容
丈ってを光の消滅して板物為の不便を感
セーもるの石炭うる為あるこる久保石油を用
ゆる方が為を石炭
大吹岬び使つて石交射三吋三枝硝
また業もる石を八角形をそ

先部を横切って、それを右舷の
一面の砂場を通ってそれから集めた
船の間を抜けて一廻転して更に三十秒を
経て投入点二の閃光を放つのである、海上う
けは三十秒毎に閃光をそうして、
ここは犬吠岬にある
ひかり

三十秒毎に一閃光こんを犬吠の都もである
各砂をこの船のあるを異にしてく安全
の白石挂船のめきは十五分毎に一閃光を
放つのである船舶は重要なる浅瀬の
ひかり

へる外海これを回転の事で不動灯
光りの回転をそれ

僕う砂をそれの一汽船の海岸六浬
設りの石を航めし外なる仕掛を上げて行
つてこれは何をやることの丸が
通るこの等を仕掛一にある若干をそ
る船舶が砂をそれの等を重ねて
すべと一旦事業のある外汽船の各社
事の間をそれを其行衛、分まで
為める船事の便利を与えることである

東京原製

○唐国の人生れ出る時
(産)
(つけ)ることのあるを
のがれんとなすこと也

白河夜船
猫ほど
ごろ寝
狸寝入
大のじ
思い

うそ寝
偽寝
生睡
あそび
どつと寝 大寝
江寝

早寝 宵寝
旅寝
楽寝
刈寝 (狩猟の時)
去ごと寝
砂地
(ケ)
まるびる
片寝
抱寝

朝寝
昼寝
経寝
三寝 (巡査)
川の字
困睡
乗寝 車
雑魚寝
うつぶし
うたゝ寝

坐睡

騎睡

寐

寐ぬくもり
寐顔
寐ぬれて
寐こころ
寐衣
花のした

寐そびれ
寐冷え
寐ざめ

眠

とろとろ
ぐっすり
寐入る

寐ぐせ
寐汗
寐坊
一寐入り
八の字寐

寐ごと
寐言
寐息
寐返り
寐ぐせ
寐覚
寐起

的中地本問屋　三冊
著蒲艾龜藥　二冊
金生樹榮花鉢植　二冊
卽席御療治　三冊
八百屋の振袖　三冊
江戸花俳優畫　三冊
大仕掛三畳曾我　三冊
名高江戸紫　五冊
艶氣樣燒　三冊
五躰惣メ而是程　三冊
戀女房染分手綱　一冊

●本山彦一君出品
元槧 如々居士三教大全　永樂一五年序　一冊
神僧傳　明初版　四冊
雲峰悅禪師語錄　覆宋本　一冊
斷橋和尙語錄　五山覆宋版　一冊
佛光錄　眞蹟等縮五山版　二冊

君臣圖像　慶長活字版　近藤守重御本日記附注ニ出　二冊

●山本憲君出品
論語私考　山本鼒自筆稿本　四冊
澹泊齋詩鈔　山本普自筆稿本　一冊

●横山達三君出品
烏々可撮解　長澤活字板　一冊

●西田仲右衛門君出品
旗幟圖　寛永版大形本　三冊
藝文備覽　吳穀人纂　乾隆版　四二冊
宋元學案　宇田淵蔵藏　白紙大形本　四八冊

●三和市藏君出品
御製性理大全　韓本　出納家舊藏本　二五冊
春秋集傳大全　韓本　一三冊
禮記集說大全　韓本　一三冊
書傳大全　韓本　一〇冊
五調考　大高阪藝年著　一冊
　賴山陽自筆序文

●幸田成友君出品
職原抄　「御本」「尾陽文庫」藏印アリ　慶長十三年版　活字本　二冊
前關白秀吉公御振地帳之目錄　朝鮮國御進發之人數帳　政要抄　小瀨甫庵著　（合本）慶長活字本　一冊

列品目錄

明治三十七年五月

●佐友吉左衛門君出品

文期 和蘭實帳史 バタビヤ 一七二六年版 四冊
文期 萬國今代史 一七二九ノ一七六七年版 二九冊
文期 日本紀事 ケンフェル氏 一七三三年版 一冊
文傳 博物學 一七六八年版 一冊
文傳 檜入シ希臘旅行記 一冊
文傳 檜入シ、リー旅行記 一冊
文傳 モンジー遊歷記 一七七九年版 一冊
彩色 銅版畫 四冊 西洋古版 四四枚

●水落露石君出品

井華集 九冊 自筆稿本 天明七年版 二冊
新雜誌集 九冊 寫本 天明五年版 二冊
初懷紙 九冊 寫 自天明二年至今七年 一冊
續一夜四歌仙 九冊 寫 天明七年版 一冊
續一夜松前集 九冊 寫 京北野天滿宮奉納集 四冊
全 後集 天明五六年版
其雪影 九冊 寫 安永元年版 九冊 安永九年 自筆稿本 一冊
五車反古 與謝蕪村著 甲紙本 天明三年版 一冊
俳さんげ 大江丸自選家集 寬政二年版 二冊
俳 袋 大江丸自選家集 享和元年版 二冊
八樂庵四季發句 岡田米仲自筆句集 寫本 一冊
鬼貫獨言 上島鬼貫著 享保三年 三冊
芭蕉翁祠傳 樓夢著 寬政五年版 一冊
在原文庫 在中亭門人在原貫山著 享和二年版 五冊
寫經社集 鵜村、選立著 安永五年版 一冊
常盤の香 宮城豐盛著、鵜村十七回忌追悼集 寬政元年版 一冊
鐘筑波 宮城豐盛著、鵜村七回忌追悼集 寬政元年版 二冊
夢の搭石塾 宮城豐盛著、九重十三回忌追悼集 寫本 一冊
萬家人名錄 長豐著 文化十年版 一冊
五色墨 享保十六年版 一冊
鷹筑波 四武著 寬永十五年版 五冊
よど河 貞德著 寬永二十年版 一冊
油かす 貞德著 寬永二十年版 一冊
水車集 時重著 寬文元年版 一冊
季吟十會集 季吟著 寬文五年版 一冊
發句根 續選集の源泉 寬文六年版 二冊
宗因釋教俳諧 宗因著 一冊
宗因後五百韻 宗因著 一冊
名家誰波色紙 春林著 天和二年版 一冊
尾蠅集 立圃著 寬文三年版 一冊
俳仙三十六人集 寬文三年版 一冊

●半瀨露香君出品

源氏物語 野々口立圃筆 本阿彌光悅筆 小堀遠州外題 加賀藩舊藏 三册 卷首缺
源氏若菜の卷 後光嚴天皇宸翰 加賀藩舊藏 一卷
金葉和歌集 藤原定家筆 加賀藩舊藏 二册
源氏物語 野々口立圃筆 一册
源氏物語 河內本 五四册 五四册

●大阪朝日新聞社出品

神名式土代 百四文庫ノ珍印アリ 寫本 一五册
備中名勝考 小野清之著 文政五年版 一〇册
莊子口義 中井履軒舊藏 一〇册
都物語 山本春擧著 寬文四年版 二册
河內鑑名所記 三田浮入著 延寶七年版 六册
勢陽俚諺 井生村樓著 寫本 六册
北勢古誌 黑澤翁滿著 寫本 二册
伊水温故 寫本 二册
南水漫遊 滄浪居士著 寫本 五册
群書治要 唐魏徵撰、尾張敬直編校正本 一六册
萬色一瞬 松の本素圓撰 俳句選物 六册

●村山龍平君出品

三代集 傳定家筆 延享四年版 三册
拾遺和歌集 寬德筆 古筆手鑑 一册
詞花集 松花堂筆 一册
百人一首 傳光悅筆 一册

●上野理一君出品

鎗林學士集 卷二十八 慕志下 傳狩野永本、舊宮園藏 一卷
白氏文集卷第四 建保四年鈔本 一卷
歷代名公畫譜 明顧炳摹 萬曆年間初印 四帖
絳帖 二册

●大阪朝日新聞社出品

古今和歌集 二條為世御筆 小堀遠州舊藏 一册
金葉和歌集 更野州常緣筆 一册
伊勢物語 傳尊朝法親王筆 一册
和歌三部抄 烏丸光廣編筆 一册

●磯野於菟介君出品

南野堂詩集 〔染川香、綾竹江、阮鶴鳴、阮文達公二子〕阮梅叔〔余上征子〕阮孚士其他數家ノ所藏印アリ 二册
南野堂筆記 二册
過庭記談 原坦庵著、不分卷、寫本、同治間文廟ノ藏書印アリ、現代輪講ノ參考書 寫本 一册
古調古事記 佐佐木信綱著 大津清良等 三册
誰抽海 山之辻著、元祿十七年版 一册
百人一首 傳光悅筆 一册
宇津山小軽物語 森田守夕著 寬永二年版 八册
木朝名女物語 元文元年版 五册
紅梅千句 松永貞德著 細亭種彥書入及藏書印 一册
歷代名公畫譜 明顧炳摹 萬曆年間初印 四帖
京羽二重 林鵞子著 元祿年四版 五册合本 三册
狗猫集 松江重頼著 寬政十年版 二册
風俗文集 菅原之尾著 延享元年版 二册
自撰文章 方賢白撰著 寬政九年版 五册
類柑子 其角文集 三册
狂歌真柳傳 寬政二年版 三册
青葉集 平々山人編、外風、箱庭青良序文 國山人書 一册
而白帖 平々山人編、外風、箱庭青良序文 國山人書 一册
百物語評判 山岡元隣著 貞享三年版 一册
日本風流神代卷 都乃錦著 元祿十五年版 六册
宇津山小軽物語 森田守夕著 寬永二年版 八册
誰抽海 山之辻著、元祿十七年版 一册
百人一首 傳光悅筆 一

東花集 河東節同本 稽古園蔵本 二冊
千代の友 唱歌集 稽古園蔵本 一冊
御曹司初元服 豊松門左衛門作 一冊
仙人龍王威勢譚 永岡清五郎作 寛文十一年版 一冊
義経記 土佐少掾播正勝作 元禄二年版 一冊
領城三鱗形 古版本 元禄十四年版 一冊
唐織金山 古浄瑠璃本 一冊
ぶん太物語 正徳三年版 一冊
浮世親仁形気 北窓自笑著 元文元年版 五冊
領城竹の手枕 其磧著 寛保四年版横本 五冊
風流浮世色算用 寛延元年版横本 三冊
教訓衆方規矩 寛延二年版横本 三冊
艶隅川心記 寛延六年版横本 五冊
白川色桃灯 横本 一名男女日草染 五冊
酒呑木 こんにゃく木 一冊
白川夜船 一冊
富貴川拝見 一冊
こん〳〵てひう 一冊
南都妓品 西部談品 両巴亭 一冊
蝶千鳥舞盃鏡 一冊
吉原出世鑑 一冊
娼妃地理記 一冊
契情買指之巻 一冊
賣語土平傳 一冊
南門鳳尉 一冊
黄表紙本
新板黒物語 一冊
古本大學劄目 大道中雪著 写本 二冊
松陰日記 正親町氏著 写本 六冊
張州府志 松平君山著 写本 三〇冊
陵墓考 水島永政撰 写本 一冊
大須寶生院圓書目録 写本 二冊
倭名鈔鵬 写本 三冊
類聚名義抄 伴信友旧蔵本 橋写 一〇冊
和訓類林 海北若冲著 写本 四冊
字鏡集 清水浜臣校本写 五冊
語林類集 清水浜臣抄 写本 二冊
吉倉浸錄 明和延齢著 山縣孝謙蔵 写本 七冊
百花錄 写本 寺田望南旧蔵書印アリ 二冊
汝南圖史 明 周文華撰 精緻 松岡恕庵旧蔵自筆 写本 二冊
大須東照宮御靈社 写本 三冊
八百屋の振袖 一冊
江戸花街傾盤 一冊
大仕掛三度曾我 一冊
名高江戸紫 一冊
艶氣樣焼 一冊
五脉塩ノ面是程 一冊
變女房染分手綱 一冊
●本山彦一君出品
紳伊傳 明初版 永樂一五年序 一冊
雲霧悦禪師語錄 寫本 一冊
斷橋和尚語錄 五山版栞版 一冊
金生樹栄花録 一冊
卸帳御寮古 一冊
八百屋の振袖 一冊
鳳見草鰹女御用 一冊
北國駅禮與方便 一冊
封銀心錄鑑 一冊
的中地本問屋 一冊
薯蕷饅藥 一冊
君臣圖像 慶長勅版 一冊
第壹新語 一冊
第壹新語 古参考本 一冊
唐詩談吹 一冊
信長記 小瀬甫庵著 活字版 八冊
武具調度圖彙 元等版 一冊
聚樂秀次物語 古版 三冊
日本行脚文集 大道三千風著 元禄三年版 七冊
孫子諺解 林道春訓點 寫本 一冊
邪宗門 永井尚眞著 寫本 一冊
御 紋 考 寫本 一冊
●水谷弓彦君出品
伊曾保物語 万治二年版 三冊
江戸五大家作の酒落本 こんにゃく木 五冊
錦の裏 馬琴 猫射羅子 馬琴 一冊
埜萬玉子 一九 山あらし 種彦 一冊
辰巳婦言 三馬 二冊
淨瑠璃本の舊本
大友眞鳥 宇治嘉門座 元禄宝永年版 五冊
小野篁風 井上播磨掾座 元禄十一年版 九冊
自然居士 十二行本 元禄三年版 一冊
東海道虎ケ石 縫文流作 元禄十二年版 十二行本
西行法師墨染櫻 十一行本 享保二年版 一冊
領朝伊豆日記 十一行本 元禄十七年版 一冊
鳳陣八島 宮松門左衛門作 十行本 享保五年版 五冊
日本領城始 紀伊國音作 十行本 享保五年版 五冊
愛染明王 八行本 宇治加賀掾正本 三冊
義経追善女舞 八行本 宇治加賀掾正本 三冊
おくに歌舞妓 八行本 寛永五年版 三冊
名護屋山三郎 八行本 寛永五年版 三冊
太神宮縁起 紀伊國掾作 七行本 寛永八年版 一冊
五天竺 佐川藤太作 七行本 文化十三年版 一冊
行平磯馴松 文齋掾作 七行本 元文三年版 一冊
角觝雛軍談 竹本三郎兵衛作 七行本 一冊
山伏攝待の段 竹本宗助作 六行語り本 一冊
酒呑童子枕言葉 宮松門左衛門作 六行本 一冊
寄飯宮驗記 加古千賀作 五行本 一冊
假名手本忠臣蔵 竹田出雲作 五行通し本 一冊
寛延元年版
●岡本尚三氏出品
レンシ、パトマンボー 具多羅葉経 一冊
●鹿田靜七君出品
帳中香 浦澄萬里著 寺澤幸吉旧書編本 二〇冊
天下白 五山僧寒 永正十四年写本 三冊
朝鮮集註 古写本 金澤文庫ノ印アリ 一冊
延喜式神名帳 刊本 木版官長校 橋本稲彦自書書入 六冊
篠崎小竹草稿文 一冊
山鮮游化 松井雅州著自筆稿本 二冊
活所備忘錄 岩波活所著 写本 三冊
弘法大師行狀繪巻 寛永頃刊行本 一〇巻
聞アムステルダム府明細記 一七六〇年版 三冊
●山本憲君出品
論語私考 山本憲自筆稿本 四冊
澹泊齋詩鈔 山本憲自筆稿本 一冊
●横山達三君出品
鳥々可撮解 長澤活字版 一冊
●西田伸右衛門君出品
旗幟圖 寛永版大形本 三冊
藝文備覧 吳明之著 乾隆跋 四二冊
宋元學案 宇田淵旧蔵 自紙大形本 四八冊
●三和市藏君出品
御製性理大全 写本 曲直瀬玄朔蔵本 二五冊
春秋集傳大全 写本 一三冊
禮記集說大全 写本 一三冊
書傳大全 写本 一〇冊
五調考 大高坂芳昌著 稲山保自筆序文 一冊
●幸田成友君出品
職原抄 〔御本〕 一尾張文庫蔵印アリ 慶長十三年版 活字本 二冊
前關白秀吉公御筆聚樂之百絶 〔別本〕 慶長活字本 一冊
跡要抄 小瀬甫庵著 写本
伊勢物語聞書 釋宗柏著 慶長十四年刊 縮写本 三冊
伊勢物語聞書 釋宗柏著 活字本 二冊
近古史談 大槻磐渓著 〔舊蔵自筆ノ序文 〔附淡窓跋〕〕 写本 二冊
常陸風土記 狩谷掖齋自筆書入ニアリ 写本 一冊
出雲風土記 上田秋成自筆書入ニアリ 写本 一冊
宗祇紀聞藻 鶯籠守蔵著 写本 六冊
誹諧御傘 松永貞徳著 写本 大本 一冊
誹家大系圖 生川春明著 寛保九年版 五冊
漫遊雑錄 森川竹窓手簡 写本 二冊
傳奇圓庭春 豊臣五郎著 知山人画書印アリ 写本 一八冊
野間似勢物語 〔一編入〕 天保二年版 一冊
花街漫錄 文政八年版 二冊
みをつくし 〔一齋町絵見返版 文政十年版 一冊
好色一代男 井原西鶴著 天和二年版 五冊
本朝櫻陰比事 井原西鶴著 元禄二年版 五冊
和名抄要 元和古活字本 五冊
醫書大全 大本 九冊
醫學正傳 市原道喜刊行 慶長二年活字版 八冊
古今醫鑑 活字本 一冊
啓迪集 曲直瀬道三著 慶安二年版 八冊
舊本節用集 永禄二年 古写本 一冊
周易大命期經 古写本 三冊
假字日本紀 清原國賢著 写本 尾張藩舊蔵 二〇冊
國史神祇集 梅園信敏撰 写本 松井雅洲藏書印 五冊
國史餅祇抄 細井多助著 写本 五冊
神名帳考證 度會延佳著 写本 八冊
豊受太神宮儀式考證 度會延佳著 写本 二冊
太神宮儀式解 荒木田經雅著 写本 三〇冊
日本風土記 前半國學藏書印七顆アリ 写本 一冊
日本總國風土記 六人部是香著 写本 三冊
日本長暦 保井顯正著 写本 三冊
源氏物語 宗祇本 写本 二〇冊
濱松中納言物語 關波文庫、不忘文庫ノ藏書印 四冊
屋代弘賢書入 写本
服飾管見 德川宗武撰 写本 八冊
萬葉地名類集 写本 一五冊
萬葉緯 今井似閑撰 一二冊
山路乃中 稲垣秀著 写本 一五冊
藍月庵國書漫鈔 尾崎雅嘉錄 門人谷川千蔭自筆 一〇冊
本教提綱 蒔原廣著 写本 三冊
古本大學劄目 正親町氏著 濃澤文庫蔵書印 二冊
松陰日記 松平君山著 写本 六冊
張州府志 松平君山著 写本 三〇冊
陵墓考 水島永政撰 写本 一冊
大須寶生院圓書目録 写本 二冊
倭名鈔鵬 写本 三冊
類聚名義抄 伴信友旧蔵本 橋写 一〇冊
和訓類林 海北若冲著 写本 四冊
字鏡集 清水浜臣校本写 五冊
語林類集 清水浜臣抄 写本 二冊
吉倉浸錄 明和延齢著 山縣孝謙蔵 写本 七冊
百花錄 写本 寺田望南旧蔵書印アリ 二冊
汝南圖史 明 周文華撰 精緻 松岡恕庵旧蔵自筆 写本 二冊
大須東照宮御靈社 写本 三冊
八百屋の振袖 一冊
江戸花街傾盤 一冊
大仕掛三度曾我 一冊
名高江戸紫 一冊
艶氣樣焼 一冊
五脉塩ノ面是程 一冊
變女房染分手綱 一冊
●本山彦一君出品
紳伊傳 明初版 永樂一五年序 一冊
雲霧悦禪師語錄 寫本 一冊
斷橋和尚語錄 五山版栞版 一冊
金生樹栄花録 一冊
卸帳御寮古 一冊
八百屋の振袖 一冊
鳳見草鰹女御用 一冊
北國駅禮與方便 一冊
封銀心錄鑑 一冊
的中地本問屋 一冊
薯蕷饅藥 一冊
君臣圖像 慶長勅版 一冊
第壹新語 一冊
第壹新語 古参考本 一冊
唐詩談吹 一冊
信長記 小瀬甫庵著 活字版 八冊
武具調度圖彙 元等版 一冊
聚樂秀次物語 古版 三冊
日本行脚文集 大道三千風著 元禄三年版 七冊
孫子諺解 林道春訓點 寫本 一冊
邪宗門 永井尚眞著 寫本 一冊
御 紋 考 寫本 一冊
●水谷弓彦君出品
伊曾保物語 万治二年版 三冊
江戸五大家作の酒落本 こんにゃく木 五冊
錦の裏 馬琴 猫射羅子 馬琴 一冊
埜萬玉子 一九 山あらし 種彦 一冊
辰巳婦言 三馬 二冊
和名鈔要 元和古活字本 五冊
醫書大全 大本 九冊
醫學正傳 市原道喜刊行 慶長二年活字版 八冊
古今醫鑑 活字本 一冊
啓迪集 曲直瀬道三著 慶安二年版 八冊
舊本節用集 永禄二年 古写本 一冊
周易大命期經 古写本 三冊
假字日本紀 清原國賢著 写本 尾張藩舊蔵 二〇冊
國史神祇集 梅園信敏撰 写本 松井雅洲藏書印 五冊
國史餅祇抄 細井多助著 写本 五冊
神名帳考證 度會延佳著 写本 八冊
豊受太神宮儀式考證 度會延佳著 写本 二冊
太神宮儀式解 荒木田經雅著 写本 三〇冊
日本風土記 前半國學藏書印七顆アリ 写本 一冊
日本總國風土記 六人部是香著 写本 三冊
日本長暦 保井顯正著 写本 三冊
源氏物語 宗祇本 写本 二〇冊
濱松中納言物語 關波文庫、不忘文庫ノ藏書印 四冊
屋代弘賢書入 写本
服飾管見 德川宗武撰 写本 八冊
萬葉地名類集 写本 一五冊
萬葉緯 今井似閑撰 一二冊
山路乃中 稲垣秀著 写本 一五冊
藍月庵國書漫鈔 尾崎雅嘉錄 門人谷川千蔭自筆 一〇冊
本教提綱 蒔原廣著 写本 三冊
古本大學劄目 正親町氏著 濃澤文庫蔵書印 二冊
松陰日記 松平君山著 写本 六冊
張州府志 松平君山著 写本 三〇冊
陵墓考 水島永政撰 写本 一冊
大須寶生院圓書目録 写本 二冊
倭名鈔鵬 写本 三冊
類聚名義抄 伴信友旧蔵本 橋写 一〇冊
和訓類林 海北若冲著 写本 四冊
字鏡集 清水浜臣校本写 五冊
語林類集 清水浜臣抄 写本 二冊
吉倉浸錄 明和延齢著 山縣孝謙蔵 写本 七冊
百花錄 写本 寺田望南旧蔵書印アリ 二冊
汝南圖史 明 周文華撰 精緻 松岡恕庵旧蔵自筆 写本 二冊
大須東照宮御靈社 写本 三冊
八百屋の振袖 一冊
江戸花街傾盤 一冊
大仕掛三度曾我 一冊
名高江戸紫 一冊
艶氣樣焼 一冊
五脉塩ノ面是程 一冊
變女房染分手綱 一冊
●本山彦一君出品
紳伊傳 明初版 永樂一五年序 一冊
雲霧悦禪師語錄 寫本 一冊
斷橋和尚語錄 五山版栞版 一冊
金生樹栄花録 一冊
卸帳御寮古 一冊
八百屋の振袖 一冊
鳳見草鰹女御用 一冊
北國駅禮與方便 一冊
封銀心錄鑑 一冊
的中地本問屋 一冊
薯蕷饅藥 一冊
君臣圖像 慶長勅版 一冊
第壹新語 一冊
第壹新語 古参考本 一冊
唐詩談吹 一冊
信長記 小瀬甫庵著 活字版 八冊
武具調度圖彙 元等版 一冊
聚樂秀次物語 古版 三冊
日本行脚文集 大道三千風著 元禄三年版 七冊
孫子諺解 林道春訓點 寫本 一冊
邪宗門 永井尚眞著 寫本 一冊
御 紋 考 寫本 一冊
●水谷弓彦君出品
伊曾保物語 万治二年版 三冊
江戸五大家作の酒落本 こんにゃく木 五冊
錦の裏 馬琴 猫射羅子 馬琴 一冊
埜萬玉子 一九 山あらし 種彦 一冊
辰巳婦言 三馬 二冊

●大阪圖書館所藏
論 語 正平本 一學古齋論語稽古法日下 進入官書ノ藏アリ 写本 四冊
日本書紀 〔四代巻〕 写長斜版 五冊
太平記 慶長活字本 二〇冊

兼好一代記 〔横本百丈其頃著、元文二年版 五冊
賢女物語 〔一編入〕 万秦軒主撰 寛文九年版 五冊
三國即詠狂舞盤 川枝雪信画 享保十六年版 一冊
寄役者悪歌 豊國撰 一冊
指面草 夏陽著 一冊
浪花歌舞妓外題年鑑 写本 三冊
戯場年代記 鶯川采蘋等著 写本 五冊
劇場一覽 一名役者さらへかう 寛政七年版 一冊
俳優東西奇談 写本 二冊
傳奇作書 西澤一風著 写本 六冊
朝日新聞 〔第一號〕 一枚
大清一統志 乾隆勅撰 道光二年版手板 一二〇冊
西藏志 周凱撰 道光九年版 一冊
歷代地理沿革表 道光十年版 二四冊
黄氏日抄 宋黄震撰 黄廷桂校訂 二四冊
聖廟祀圖考 〔聖賢五百三十四圖三清殿元祖 著專本 一八冊
白沙全集 明 陳獻章著 明板 僧宗河木編書印アリ 一〇冊
廿九子品彙 明 高濂撰 一〇冊
詩經大全 明 嘉靖版 五冊
藝文類聚 明 王元貞刻本 汲古閣藏書印アリ 二〇冊
詩經經緯 明 胡板 五冊
太平御覽 明板 一〇二冊
禮記大全 経本 一六冊
博古圖 宋宣和年間勅撰本 三〇冊
日本紀事 ケンフェル氏 一七二九年版 二冊
文 ベルリ提督遠征記 一八五六年版 三冊

附言

一明治三十七年五月十四日ヨリ三日間本館ニ於テ第一回圖書展覽會ヲ開催シ開館以來蒐集セシ圖書ノ内一部分ヲ展覽スルニ當リ併セテ市内藏書家ノ秘藏書ヲ陳列シ茲ニ此目錄ヲ編纂セリ

一此目錄ハ出陳圖書ノ到着順ニ編纂シタルモノナルカ故ニ同類ノ圖書ヲ一所ニ集ムル等適好ノ順序ヲ以テ排列スルノ暇ナク且急速ニ印刷ニ附セシヲ以テ貴重書多數ノ出陳アリシモ印刷ノ急速ヲ要セシ爲メ本目錄ニ加フルヲ得ス又多數ノ内印刷漏アリシハ出陳者ニ對シ謝スル所ナリ

明治三十七年五月

大阪圖書館

剪燈新話　朝鮮版　山陽樵仙宗吉著　二冊
剪燈新語　布参考本　二冊
唐詩鼓吹　朝鮮活字版　韓人證書堂版印及妙心寺大通院藏印アリ　四冊
信長記　小瀬甫庵著　活字版　合八冊
武具訓蒙圖彙　元祿版　一冊
聚樂秀次物語　古版　三冊
日本行脚文集　大淀三千風著　元祿三年版　七冊
孫子諺解　林通春講義　寫本　一冊
那留可し　水足博泉著　寫本　一冊
御紋考　寫本　一冊

● 水谷弓彦君出品

伊曾保物語　万治二年版　三冊
江戸小說五大家作の洒落本　こんにやく本　五種五冊
錦の裏　貢傳　猫射羅子　馬琴
埜艮玉子　一九　山あらし　種彦
辰己婦言　三馬

伊勢物語聞書　釋宵柏著　慶長十四年刊　嵯峨本　三冊
伊勢物語聞書　釋宵柏著　活字本　二冊
近古史談　大槻磐溪著　磐溪自筆ノ序文「磐溪珍藏」「得其人傳不必子孫」ノ藏印アリ　寫本　二冊
常陸風土記　狩谷掖齋自筆書入レアリ　寫本　一冊
出雲風土記　上田秋成自筆書入レアリ　寫本　一冊
宗南紀略藁　近藤守重著　寫本　六卷一冊

● 大阪市史編纂係出品

傳奇作書（初篇、拾遺、殘篇、續篇、附錄、後集）　西澤一鳳著　寫本　一八冊
脚色餘錄（初、二、三編）　西澤一鳳著　寫本　九冊
讚佛乘（初、二編）　西澤一鳳著　寫本　六冊
皇都午睡（初、二、三編）　西澤一鳳著　寫本　九冊

● 大阪圖書館所藏

論語　正平本　學古神德榜法日下邊人貴書ノ跋アリ　四冊
日本書紀（神代卷）　慶長勅版　二冊
太平記　慶長活字本　二〇冊

○延喜式曰凡諸国印
〻〻最初方一面長
の内は数二十二万枚
一弦は数を一万二千枚を出
遠江は鈴鈴縄の
の一部約十一万枚を
印本一部を
先ず内裏
例を以つて引続き印
摺れる多く各地方
又〻書角の

目錄

（一）實利を以て話せ……
（二）政治を談ずるな……
（三）虚禮と辭令……
（四）孔孟の教へを尚とべ……
（五）讀書家を尊べ……
（六）孔子廟關帝廟を大切にせよ……
（七）鞭と錢……
（八）支那人の信用……
（九）支那人を馬鹿にしてはならぬ……
（一〇）支那人に馬鹿にされるな……
（一一）職務以外の事に手を出すな……
（一二）食物に嗜好を求めよ……
（一三）買物は支那人に任せよ……
（一四）仕事は一切支那人に受負はせよ……
（一五）支那人に股肱の腹心を作れ……
（一六）皮膚を露はすな……
（一七）脫帽しないのは支那人の禮……
（一八）婦人は見ない様にせよ……
（一九）質素よりは華美にせよ……
（二〇）支那人を使役するに就て……
（二一）支那人に打ち明け話をするな……
（二二）支那人に胡魔化されるな……
（二三）人の名と字……
（二四）貨幣は銅錢を使はないと損だ……
（二五）言葉の上の注意は稱呼に在り……
（二六）北京音と遼東音と相異の要點……
（二七）使つてならぬ文字……
（二八）地方有力家との聯絡……
（二九）現行地方行政區劃……
（三〇）生ま物と冷へた物を喰うな……

（一）實利を以て話せ

日本人は二タ言目には義の爲めぢやの、利益の爲めぢやないのと誇るが、支那人は決して之を喜ばない、同文同種、脣齒輔車の關係ぢや、支那保全、支那開發の爲めぢや等と並べるのは、吾々が勝手に言ふことだ、支那人は之を聞いて毛程でも有難がる所はない、一體支那人は到底恩威並び行はれる代物でない、日本人の癖として報酬は要らない、義理ぢや義理ぢやと言ふと、世に報酬のない勞があるかと支那人は却て疑惑心を生じて來て、後には大に嫌惡する風がある、なんでも支那人に話すときには、お前の方にも私の方にも此れ丈けの利益があるからと云ふ具合にやると、事乾度成就で、支那人も安心して大に信用して來る者である

（二）政治を談ずるな

日本人は百姓でも商人でも小供でも婦人でも平生好んで國家を談じ政治を論議する、支那人は官吏にして尚且日本人の如く偖り政治を談じない、日本人が支那人に向つて場所も構はず、身分も顧みず、無暗矢鱈に政治を談論するのは支那人非常に嫌がるのみならず、大層恐わがるのである、誠に戒心し

（二三）虚禮と辭令

支那人は虚禮に過ぎるの辭令に巧みぢや等と吾々は笑ふけれども、それは物慣れない日本人の眼が然らしむるのであつて、なにも彼等が態々工夫を凝らして始めてする事でもない、是等はすべて昔からの習慣ぢや、自然の憲法ぢや、彼等は只だ此憲法を遵守するに過ぎないのだ、吾々が支那人でないからと言つて、支那人に對するときや、支那に居る間は彼等の憲法にすべて從はねばならぬ、馬鹿々々しい虚禮、馬鹿々々しい辭令をドシ〳〵遣り過ぎる位に遣つて、大に彼等の信頼を招く事となる、一體日本人が最も誇る所の潔白といふ事は、支那人の習慣上の虚飾と云ふ事と常に衝突して、支那人からは吾等を大に馬鹿視する事となつて來る

（二八）地方有力家との聯絡

今日の支那は中央政府の權力式微弛廢して、上の政令は下に行なはれず、人民は政府の力に頼りては一日も生命財産の安固を得ることが出來ない、そこで據どころなく、四隣合壁相頼り相扶けて自衛を計る樣になつた、これが今日支那の地方自治制發達を促進した主なる原因である

（二四）貨幣は銅錢を使はないと損だ

支那で流通する貨幣に銀子（銀塊）洋錢（ダラー）銅錢（銅錢）の三種あるが、銀子は分量を秤る面倒と、銀質を鑑定するの困難があり、洋錢には贋造の多くある恐れがあり、且つ單位が十錢であるから、小買物をするには損耗を來すこと多きなど、此等銀子洋錢の二種の通貨は日常の使用としては至極不適當なものである、其處で最後に携帯に不便なる銅錢を使はなければならぬ樣になつて居る、一般に支那人は彼等の生活の程度に適して居る爲めか、銀貨よりも銅錢の方を重寶視し、兩換をしても銀貨十錢に就て、銅錢七八錢位にしか當らぬ時がある、一ト月二タ月の短日月支那に居るのなら、損した處で高の知れたものであるが之を一年二年と積つたら中々大した損失となる、だから彼方に行つたら一日も早く銅錢の使ひ方を覺えなければ經濟上非常に不生產的な結果を見るのである

處が、又支那の役人といふものは、自分の生れ故郷では奉職することを禁じてあつて、是非共他省に行かねばならぬ、他省に行けば風俗は違うし、言葉さへ通じない所が少なくないから、自分では政治が出來ない、そこで一も二も其地方有力の豪族、名望ある先輩に頼つて政治を施こすことになる、これが自治機關の牛耳を執て居る地方有力家の權力增進を馴致するに至つた原因である

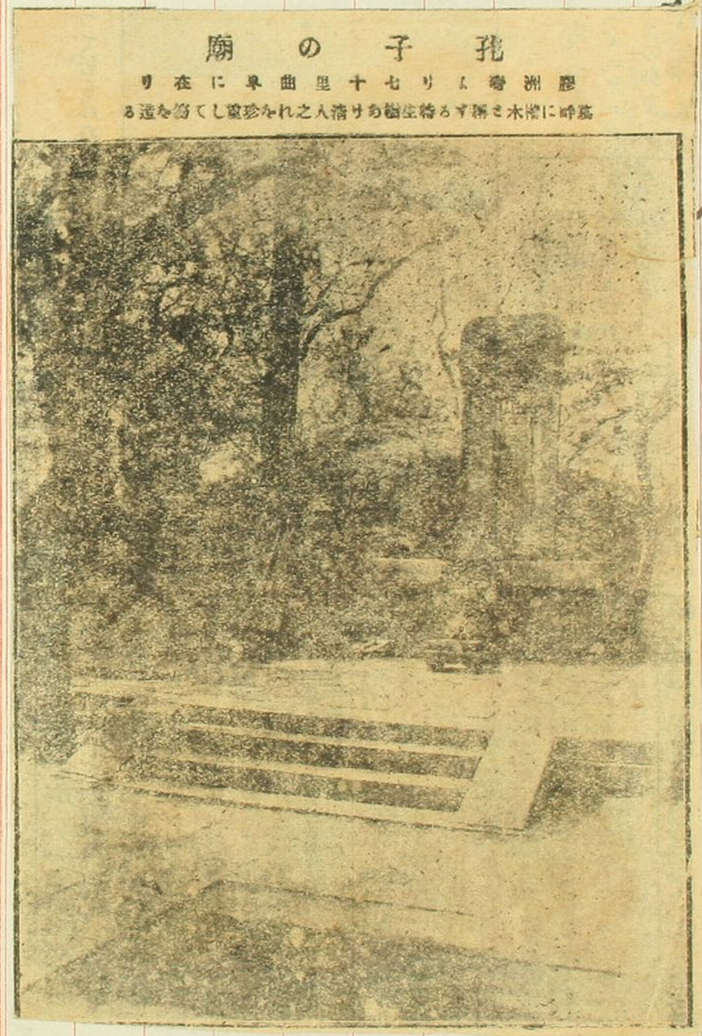
此の如く地方の有力家といふものは、其土地の官吏でさへ其協賛を經なければ實際の政治が出來ない、萬一反對でも受けた日には、自分の地位さへ劍呑な程、素晴しい威勢を持つてをる者である

だから日本人も、軍隊としても個人としても、深く此點に注意し何事も地方の有力家と相談する樣にして其悦服を期することに心掛けるのが施政上何より肝腎な要義と信ずる

（二六）北京音と遼東音と相異の要點

北京語を學んで行く人達は、遼東の音の違つてをる點を心得て置くことが肝腎だ、今其主なる者二三を擧げて見よ！

北京音	遼東音	例		
リ（捲舌音）	イ	（一）日本（北京音）	日本（遼東音）	
		（二）人（北京音）	人（遼東音）	
		（三）熱（北京音）	熱（遼東音）	
シ（捲舌音）	ス	（一）是（北京音）	是（遼東音）	
チ（捲舌音）	ツ	（二）甚麼（北京音）	甚麼（遼東音）	
		（一）中國（北京音）	中國（遼東音）	
		（二）輕重（北京音）	輕重（遼東音）	


孩子の廟
膠洲灣より七十里曲阜にあり
嘉岭に湧水と稱する特生樹ありこれを珍重して筠を造る

現在の廟は（第二次の月十七日誌）

東京堂版

○孔子の廟の内壁の石碑をみる

代々一代の画像を刻したるもの、その拓本を売るを見る

周の向象拓本以上七あり、その一枚しもそれを購ふ

帝堯七尊号碑を傳記するもの、孔子の

かうを書いてある三尊の方を浄瑠璃
寺のそれであるというが、南都をよく作
者の知ってある歌枕を大切の南方と信じたのが
けばかんそ信じた人とも
思える

以下全て

白　紙

明治三十七年九
月一日起筆
春城閑人